

(対象事業：先進的な展示・教育普及手法の開発等の事業)

事業名：古代人とのふれあい総合的学習体験教材開発事業

事業者名：山梨県立考古博物館

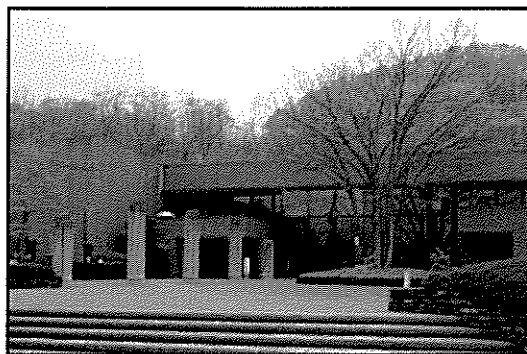
連携事業館名：

住所：山梨県東八代郡中道町下曾根 923

TEL：055-266-3881

FAX：055-266-3882

HPアドレス：<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kouko-hak/index.html>



①施設概要

山梨県立考古博物館は、甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園の中心施設として昭和 57 年 11 月に開館した。当館は山梨県内で行われた発掘調査の成果をもとに、土器や石器などの考古資料を編年で展示し、古代から近現代に至るまで山梨県内各地に暮らしてきた先人たちの生活の跡をたどることができる。特に縄文土器の芸術性については高い評価を得ている。また当館のある甲斐風土記の丘公園には、国史跡甲斐銚子塚古墳附丸山塚古墳やかんかん塚古墳及び上の平方形周溝墓群など、古代甲斐国の歴史を知る上で重要な遺跡が多くあり、これらは整備され、来館者に自由に見学できるようになっている。

②事業の意図目的

最近の博物館における展示・体験活動等の傾向は、「ハンズオン」を基調とする体験型学習が主体となりつつある。また、来館する児童・生徒及び教師から、学校の授業の中で体験学習の教材を提供して欲しいという要望が多数寄せられている。そこで当館では、従来行われている展示を主体とする在り方に加えて、実際に手に取り着用等ができる体験型の資料・教材開発を目指し、本事業を計画した。

③事業概要

当館は、甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内に位置し、周辺にはたくさんの遺跡や国史跡が保存整備されている。本総合的学習体験教材開発事業では、これらの遺跡にまつわる時代に関係した服飾を忠実に再現した体験型教材を作成し、通常の展示にも耐えられる程度の復元品を実際に着用することによって、古代甲斐国の歴史の一端を身近に体験し、時代的なイメージを膨らませ、学習する機会を提供するものである。

また、多忙な学校運営の中で来館が困難な学校にあっては、貸出可能な教材として提供できることを念頭に計画した。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他 (事業のチラシ)

報告書等

ビデオ

冊子 (

その他) (古代衣装着付け用CD

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 152 人

内 訳 小学生 82 人、養護学校中学部 14 人、教諭 8 人、館外参加者 (県教委学術文財課職員、考古博物館協議会員など) 5 人、博物館職員 12 人、保護者 32 人

(1) 事業の実施状況について

①事業内容の検討

「古代人とのふれあい総合的学習体験教材開発事業」実施に先立って、学校関係者・博物館協力会代表者などから構成するワーキンググループを組織し、事業内容についての検討、体験教材を活用した研究授業への協力を依頼した。

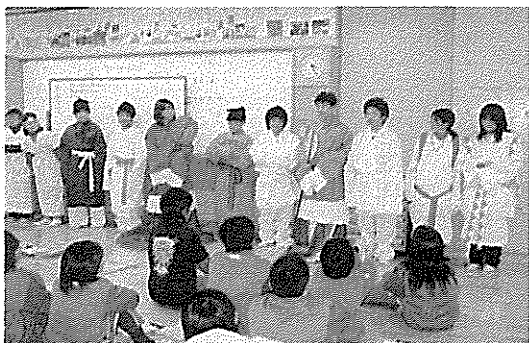
②体験教材の開発

事業において製作した体験教材は、本館周辺に点在する遺跡・史跡と関連した弥生時代から古墳時代の庶民の衣服・古墳時代の豪族の衣装・古墳時代の巫女の衣装・飛鳥時代の役人の衣服、飛鳥時代の女官の衣装の5種類及びそれに付随するアクセサリー類などである。

③事業の実施状況

○小学校

- ・平成17年1月25日昭和町立常永小学校6年生46名を対象に研究授業を実施。
- ・同年2月2日に笛吹市立御坂西小学校6年生29名を対象に研究授業を実施。



昭和町立常永小学校



笛吹市立御坂西小学校

○同年2月9日第2回ワーキンググループ会議での報告

・養護学校

ふじざくら養護学校で貫頭衣を縄文・弥生時代の衣食住について学ぶ中で貫頭衣を活用した事例

・中学校での選択社会科での活用案

・高等学校での地歴科での活用案

○同年3月5日「チャレンジ博物館」

当館の小・中学生対象の催し物である「チャレンジ博物館」において「古代の衣装に挑戦」と題して、衣装の学習会と試着を開催。5種類の衣装すべてを参加した子どもに試着してもらい、古代人の気分を味わってもらうことができた。

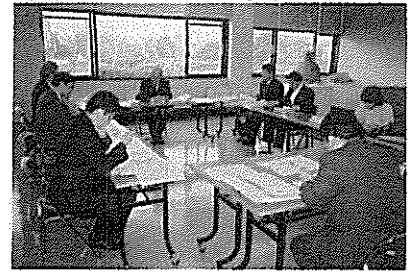
(2) 地域との連携について

事業実施に先だって、平成16年度「古代人とのふれあい総合的学習体験教材開発事業」ワーキンググループを県教委学術文化財課・考古博物館協力会・学校関係者及び博物館職員14名で組織し、平成16年10月8日・翌年2月9日と2回の会議を開催した。

第1回の会議では、事業の趣旨を博物館側より説明、小学校・特殊学校教職員及び

中学校・高等学校より出向している当館職員及び埋蔵文化財センター職員に体験教材を活用した学習指導案作成を依頼した。

第2回会議では、研究授業の報告・小中高校別学習指導案の検討、「総合的な学習の時間」との接点、貸出マニュアル案などについて協議した。



第2回会議

(3) 成果物について

- 1 弥生時代から古墳時代の庶民の衣装（貫頭衣）3 着
- 2 古墳時代の豪族の衣装（胡服）3 着
- 3 古墳時代の巫女の衣装（巫女）3 着
- 4 飛鳥時代の役人の衣装（官吏）3 着
- 5 飛鳥時代の女官の衣装（女官）3 着
- 6 古墳時代の巫女の衣装付属品装身具類（首飾り、腕飾り、足飾りなど）1 式
- 7 衣装移動ケース3 台
- 8 体験学習ノート
- 9 事業案内チラシ
- 10 着付け見本CDR

(4) 参加者の反応

①昭和町立常永小学校6 学年(平成 17 年 1 月 25 日実施)

常永小では社会科の授業で活用。歴史の授業の復習を行いながら、現代の衣装にふれて、古代の衣装について予想させ、児童の代表に5種類の衣装を試着してもらい、気づいたことや考えたこと、感想等をワークシートに記入していくという授業を展開。児童の反応は良好で、楽しみながら古代の歴史を身近で実感したようであった。

○児童

- ・身分によって服の色やデザインが違う。時代が過ぎていくうちに使いやすいデザインになった。(男子)
- ・身分のちがいで着ている服がちがうと思った。私が予想していた服とぜんぜん違う。実際に見ることができ、よかった。(女子)
- ・服がとても薄い。私の予想では色つきで着物みたいな物だと思っていたけれど、実際にみて色もなく、とても薄かったのでびっくりしました。(女子)
- ・色があざやかできれいだった。下が今のスカートのようになっていておしゃれだった。(女子)
- ・昔の人の服が正確にわからなかったので、触れることができ、よかった。(男子)
- ・時代は進化していてどんどん色もでてきたり、デザインも変わったり、人類って考えることがすごいと感じた。(男子)
- ・私は巫女が出てくる昔の話などが好きで、見ていたら自分が思っていた服と違っておどろきました。着物とお祭りの時に着るハッピーがくつついたような感じでした。色がついているから、やっぱり巫女がえらいんだと思いました。(女子)

- ・今は好きな服を着られるのに大昔は身分によって服装がちがい、しかも色も少なくて今とまったくちがうと思った。(女子)
- ・全体が白なので、まだ色をたくさん使える技術が発展していないことを知った。今と比べると大昔は地味なので、今はとてもぜいたくをしていると思った。予想とは少し遠かった。(男子)
- ・女官がいることも知らなかったけど、見て「やっぱり天皇の近くにいる人はきれいなかっこうをしているんだ」と思った。身分の差別があるんだと思った。(女子)

○教員（授業者）

- ・研究授業をおこなった感想として、実際に授業の中で学ぶ時期をかなりすぎたので事前に復習も兼ねて行った。この時代を学ぶ4月くらいに組み込めたらよいと思う。ハード(衣装)だけでなく、ソフト(学芸員)もついてくるというのはたいへんよいことなので、時期を見ながら活用していったほしいと思う。

○館外参加者

- ・常永小の研究授業を見たが、子どもたちがいきいきしていた。非常によい体験だったのではないと思う。年間の授業の中で積極的に組み込んでいってもらえるとよい。

②笛吹市立御坂西小学校6年生(平成17年2月2日実施)

御坂西小では家庭科の授業に活用。古代の衣装について調べたことを発表、児童の代表が5種類の衣装を試着し、特徴・感想及び気に入った衣装を選んでワークシートに記入するという流れで授業が進行した。復元であれ本物の衣装を見、着ることができた驚きと喜びで児童には好評であった。なお、保護者の学校参観日と重なっており、当館の新規事業について周知ができた。

○児童

- ・一番気に入った服装・・・貫頭衣(10)胡服(2)巫女(2)女官(8)官吏(6) 回答28
- ・実物を見たり着たりできて、とてもよい経験になった(女子)
- ・時代によって色や素材が変わっているが、帯だけは共通だった。(男子)
- ・めったに見られないものが見られてよかった。模様が少なくシンプルで、今のようボタンで留めていなくて帯なので、着づらいかと思った。(女子)
- ・その時代ごとに人々の工夫で、色を付けたり重ね着をしてきたりして、昔の人はすごいなあと思った。(女子)
- ・試着したらすごく重くて、目立って恥ずかしかった。けれどすごくいい経験ができてよかった。(女子)
- ・想像していたよりも本物を見てびっくりした。モデルの人たちもなりきっていてよかった。(女子)
- ・豪族の服は格好良くて丈夫だと思った。でも色が付くと一気に雰囲気が変わった。(男子)
- ・アクセサリをしたり、昔の人もおしゃれだったんだなと思った。(女子)

○保護者

- ・子どもたちは貴重な体験ができたと思う。親も目の前で見るのは初めてなので、

興味深く参観できた。

- ・教科書の絵などより、実際に着たり触れたりすることで、印象に残った授業になったと思います。2 時間ぐらいの時間があればよかった。考古博物館の方の話もせつかくの機会だったので聞きたかった。とても良かったので、今度考古博物館にも親子で行ってみたいと思った。
- ・古代の衣装をあんなに間近に見ることができて、すばらしい機会になったと思います。時間がなくてもったいなく感じた。もっとじっくり服装や道具の説明を聞けたらよかった。
- ・考古博物館にはなかなかなじみがありませんが、こんな機会はすばらしいと思った。楽しみながら歴史を身近に感じる事ができた機会だった。専門の方の説明や質問コーナーなどがあればもっとよかった。

○教員（授業者）

- ・今回の授業は特設 3 時間扱いで行ったが、できれば社会科の学習単元(古代の単元)の中に位置づけてできると効果的だと思う。
- ・各衣装に関わる情報としては、時代背景・身分・素材などに今回はとどまったが、当時その衣装を身に着けていた人の生活ぶりや思いまで迫ることができればよりよかった。
- ・演劇をはじめ、学芸会や学園祭などの機会に広範囲な活用ができればと思う。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

①取り扱い等に対する効果

- ・本来の貸出業務としては、基本的な取扱を借用側が扱うこととしているが、研究のため実施した 2 回の授業では、当館職員による着付けを実施した。その結果、貸出の際には衣装取り扱いについての十分なレクチャーや授業の展開方法についてアドバイスすることが効果的ではないかと考えられる。
- ・事前学習を終了後に、体験学習に移行した方が全体的に落ち着いた体験学習ができると考えられる。
- ・衣装のメンテナンスについての課題が明確になった(クリーニング等)。

②児童に対する効果

- ・実体験をもとにした具体的な感想が多かった。また色やデザイン、着方など、実際に着たこと、見たことによって新たに疑問が出てきたようである。
- ・復元であれ本物に接することができた驚きと喜びで好評であった。感想の中には色・重ね着などデザイン面に気がついた児童が多く、ボタン・ファスナーなどがないのが新鮮だったようで本物ならではの説得力があった。
- ・全体的に子どもたちの反応はよく、衣装を手に取り着用したことによって、古代史をより身近に感じ取らせることができた。

③保護者に対する効果

- ・親子で、衣装を通じて古代史を共に学ぶ貴重な機会となった。
- ・当館の教育普及活動への理解が深まり、来館を促す契機となった。